成果の説明書

(氏名)　米本　清	(学部)　地域政策学部

1　重要事項

①災害を考慮した住民・産業の空間的分布に関する研究

助成を受けている日本学術振興会科学研究費・基盤研究（C)「感染症・災害を考慮した住民・産業の空間的分布と厚生水準に関する経済学的研究（2022 年度～2026 年度）の研究成果の一つに関して、以下の学会発表を行った。

米本清「災害・感染症の外部性を考慮した都市モデルと最適性」第 38 回応用地域学会研究発表大会、九州産業大学、2024 年 12 月 1 日

②空間経済学モデルと産業連関モデルの融合

東北大学の伊藤亮准教授と共同で進めている、空間経済学のモデルと産業連関モデルの関係についての研究や、その応用分析に関して、以下の学会発表を行った。

米本清・伊藤亮「一般均衡モデルの線形近似による輸送改善効果の検証：北関東地域を中心に」環太平洋産業連関分析学会第 35 回全国大会、南山大学、2024 年 10 月 26 日

③選好・効用の理論およびその地域経済学への応用に関する研究

以前から進めてきた選好・効用と人口移動・地域経済の理論に関する研究の最新成果を、以下のディスカッションペーパーの形で公表した。

Yonemoto, Kiyoshi, Deriving Reference-Dependent Utility Function from Pareto or Lognormal Income Distribution: The Role of Migration in Evolution, 高崎経済大学地域政策学会ディスカッションペーパー2024-01.

④本学地域科学研究所関連の研究・業務

本学地域科学研究所では総務企画委員長を担当し、運営などに携わった。またリーダーを務めている「地域交通プロジェクト」では公開講演会を 2 回企画し、外部から講師にお招きしてご講演いただいた。さらに「製造業プロジェクト」でもメンバーとして執筆などを進めている。

⑤院生・学生との共同研究など

2019-20 年度を中心に当時の院生と研究を進め、学術雑誌に投稿して掲載決定されていた以下の論文に関し、コロナ禍のため出版が遅れていたが、本年度中に合併号として出版された。

早川雄丞・米本清「外国人観光客の地方分散化とその効果に関する研究－群馬県を中心として－」観光まちづくり学会誌 Vol.18-21 合併号、pp.27-36.

本年度研究室に在籍していた院生が以下の外部研究発表を行った。

山本竜也・米本清「全国の自治体における各種 MaaS 導入・活用状況に関して」令和 6 年度観光まちづくり学会いわき大会、2024 年 11 月 10 日

また、本年度研究室に在籍していた学部生が以下の外部研究発表を行い、発表奨励賞をいただいた。

西岡直「神奈川県横浜市のサブセンター存続とコンパクトシティ政策の両立に関する研究～兵庫県神戸市と対照して～」日本経営工学会関東支部学生論文発表会、日本工業大学、2025 年 2 月 26 日

2　その他の事項

環太平洋産業連関分析学会では企画部会長・プログラム委員長を務め、とくに後者に関しては 8 月の大部分を費やして大会プログラム全体の作成、調整、座長・討論者へのご依頼やそのとりまとめを行い、これを完成させた。
関東都市学会の理事（2015 年度-）を務めている。2025 年 3 月からは事務局長代行を務め、学会事務の大半を行っている。
観光まちづくり学会の理事（2015 年度-）・学術論文審査委員会委員長（2023 年度-）を務め、査読依頼やそのとりまとめ、審査の大半を引き受けている。
本学構内で 5 月 25 日～26 日に開催された日本経営工学会 2024 年春季大会では、経済学部の阿部教授をサポートする形で運営を担当した。
日本地域政策学会理事（2020 年度-）を務めた。
沼田市水道料金あり方検討委員会の委員長を務め、年度内に答申書をとりまとめて市長に提出した。委員会の内外では議論がかなり本格化したため、調整なども行った。
厚生労働省群馬地方最低賃金審議会委員・専門部会委員（2021 年度-）を務めている。
群馬県明和町「まち・ひと・しごと創生有識者会議」委員を務めている（2022 年 2 月-）。
11 月から群馬県地震被害想定調査検討委員会委員を務めている。
複数の学会において大会等の座長や討論者を務め、投稿論文の査読を行った。
佐久大学において「地域・プレメディカル産業論」非常勤講師を担当し、そちらでの教育成果と本学における教育・研究成果を相乗的に活用している。
学部の入門・必修科目である「地域政策学入門」の授業を引き続き担当し、導入科目の充実に努めた。
研究室の 2-3 年生学生を中心に、榛東村子育て支援イベントに参加し地域支援を行った。
大学院で論文審査の副査などを担当した。
学内の各委員会や入試関連の業務なども積極的に務めた。

3　次年度以降の計画・抱負

最終年度となる上述②や④（地域交通プロジェクト）の研究のとりまとめや、4 年目となる①の研究などの確実な進展を図りたい。

着任後 14 年目となったが、引き続き講義内容などのアップデートを積極的に進め、学生のニーズに合わせるとともに、さらに質を高める。演習に関しても、より学生の満足度や教育効果が高くなるよう内容を更新する。

本学地域政策学会の次期会長となったため、学会運営を的確・積極的に行いたい。